

ひとさまざま
な目がくる

横浜市民のそれぞれが持っている社会的な属性をもとに、市民の生活意識をとりあえず十四のパターンに分類して並べてみたが、市民のまちへの関心には少しずつ差のあることがわかった。

そこで、市民一人ひとりが持つ属性によって、どのようにまちに寄せる関心や期待が異なっているかを、その置かれた背景を通して見てみることにしよう。

高齢者層の期待は
みんなの“支え合い”

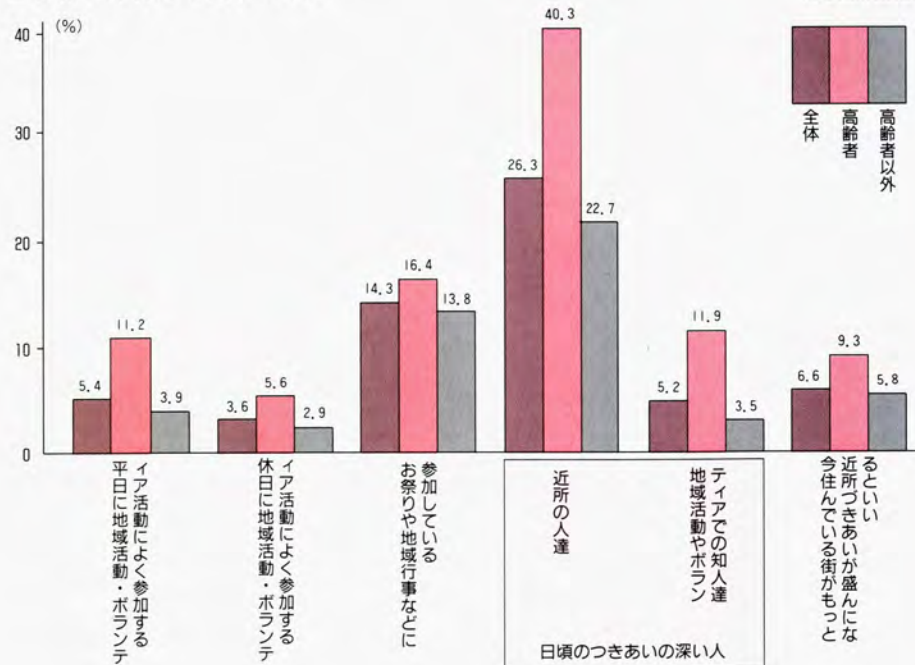
自分の住む地域にもっとも深く関わっているのはどの層だろうか。地域活動への参加や近所の人たちとのつきあいの深さでは、高齢者層の右に出る者はなさそうである。

平日でも休日でも、地域ボランティア活動や地域の行事にもっとも熱心に参加しているのは高齢者であり、その割合は、高齢者以外の層の二倍から三倍にも上っている。

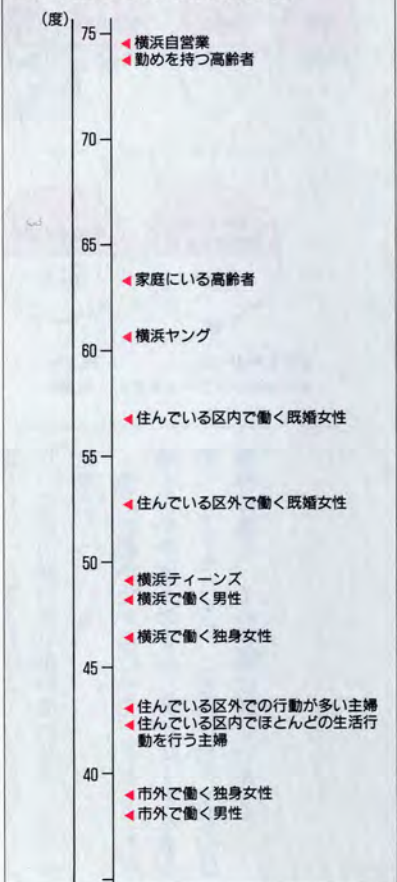


いま、地域が一体となったコミュニケーションの姿が求められている

■地域との関わりに関する比較



■生活類型別の市民意識度



日頃のつきあいも、近所の人やボランティア活動、地域活動を一緒に行っている人たちとの関係がいちばん深いのもこの層だ。この高齢者層が住んでいるまちに期待しているのは、「近所づきあいがもっと盛んになること」である。

人生八十年時代となって、いま市民が地域で過ごす時間が長くなっている。いつまでも元気で過ごせれば問題はないが、寝たきりになっても住み慣れた自分の家で安心して暮らすには、地域の支え合いの力がなによりも必要であることを、いちばんよく知っているのがこの層だからであろう。

住みよい横浜のために充実させたい点として、「行き届いた医療・福祉」がトップにあがっているのを見ても、高齢者層が生活に密着した切実な視点から地域を見ていることがよくわかる。

市民意識薄い市外通勤者の意外

では、横浜への関心がもっとも薄いのはどの層だろう。やはり「横浜都民」といわれる市外通勤者の市民意識度がいちばん低いということになるようだ。

市外通勤者の一日を市内通勤者と比べてみると、まず通勤時間の長いことが歴然である。その影響か、睡眠時間や自由時間は市内通勤者より少なく、いきおい、市外通勤者が横浜にいる時間も短くなり、横浜のまちを利用する機会も少なくなるわけである。

仕事が終わったあと、市内通勤者が自宅に近いせいもあってまっすぐ家に帰る人が

多いのにくらべ、市外通勤者はワンクッション置いてから帰る人が多い。多分会社の同僚と、会社の近くでちょっと寄り道ということだろうから、平日は横浜のまちとも人とも、つきあう機会がほとんどないのがこの層だ。

したがって、市内通勤者が住環境など生活を重視したところから横浜への期待を述べているのに対し、市外通勤者はもっとスポーツ・文化施設や商業施設が充実し、まちなみが美しくなってほしいと、東京に類似した機能を横浜に求めている。

つまり、市内通勤者が住むという目でまちを見ているのに対し、市外通勤者は何かのために使うという目でまちを見ているといえそうである。

しかし、地域活動への参加意欲は市外通勤者の方が上という現象はどう解釈すべきだろうか。日頃薄い、暮らしの拠点との関わりを、「いまはできないが、いつかは」と思うことで、とりあえず自分の横浜市民としてのアイデンティティを確保しているのかもしれない。

年齢によって異なるまちへの関心

ところで、先にあげた自由時間重視の横浜市民のライフスタイルを、もっとも正統に身につけているのは、若者と女性たちであろう。この二つの層は、横浜のまちにどんな期待を抱いているのだろうか。

週休二日制などによって労働時間の短縮が進み、ある程度の所得が確保されたことによる生活レベルの上昇とあいまって、暮

住みよい横浜のために最も充実させたい点

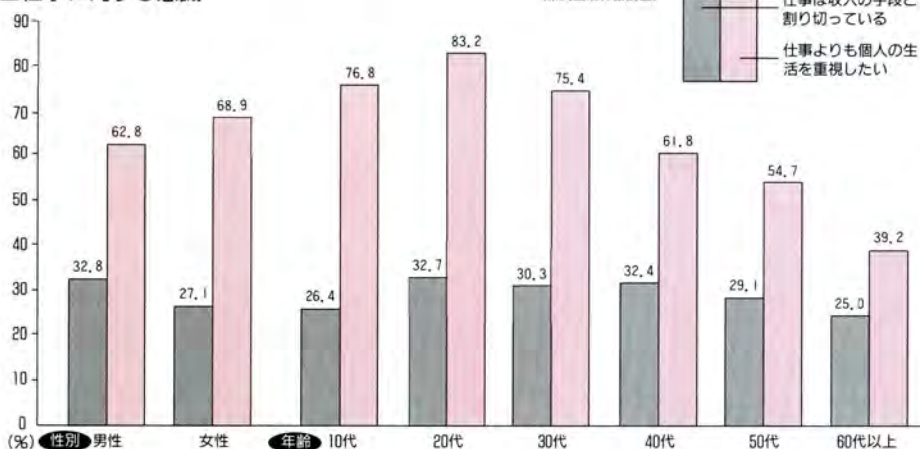
(市民生活行動調査)

	1位	2位	3位
動機を持つ高齢者	医療・福祉が行き届いていること (22.6)	快適な住宅に住めること (15.5)	働く場所がたくさんあること (15.5)
家庭にいる高齢者	医療・福祉が行き届いていること (31.5)	快適な住宅に住めること (14.6)	自然が豊富でたくさんあること (10.8)
横浜で働く独身女性	快適な住宅に住めること (20.3)	街が美しいこと (15.9)	医療・福祉が行き届いていること (15.9)
市外で働く独身女性	交通が便利なこと (20.3)	自然が豊富でたくさんあること (16.9)	快適な住宅に住めること (16.9)
住んでいる区外で働く既婚女性	快適な住宅に住めること (31.8)	自然が豊富でたくさんあること (18.2)	医療・福祉が行き届いていること (13.6)
住んでいる区内で働く既婚女性	快適な住宅に住めること (26.1)	医療・福祉が行き届いていること (23.9)	自然が豊富でたくさんあること (17.4)
住んでいる区内でほとんどの生活行動を行う主婦	快適な住宅に住めること (27.0)	医療・福祉が行き届いていること (20.3)	交通が便利なこと (13.5)
住んでいる区外での行動が多い主婦	快適な住宅に住めること (36.9)	医療・福祉が行き届いていること (15.5)	自然が豊富でたくさんあること (13.6)
横浜で働く男性	快適な住宅に住めること (32.5)	自然が豊富でたくさんあること (13.0)	医療・福祉が行き届いていること (11.0)
市外で働く男性	快適な住宅に住めること (32.5)	自然が豊富でたくさんあること (16.2)	医療・福祉が行き届いていること (8.6)
横浜自営業	快適な住宅に住めること (27.3)	自然が豊富でたくさんあること (21.2)	交通が便利なこと (18.2)
横浜ヤング (大学生・専門学校生)	自然が豊富でたくさんあること (18.1)	街が美しいこと (18.1)	快適な住宅に住めること (16.7)
横浜ティーンズ (高校生)	自然が豊富でたくさんあること (29.5)	交通が便利なこと (14.1)	遊べる場所がたくさんあること (10.3)

()内は%

仕事に対する意識

(市民生活行動調査)



個人を重視したゆとりを求める動きが高まっている

らしにゆとりを求める機運が高まってきた。人々の仕事観も、これまでの「仕事かすべてに優先する」という労働観から大きく様変わりしつつある。

「仕事より個人の生活を重視したい」と思っている市民が増えていることは、「市民生活行動調査」の結果にも現れており、特に女性と若者に余暇重視派が多いのが目立つ。二十代は八割以上が余暇重視派である。しかし一方で、「仕事は収入の手段」と割り切っている人は女性の方が男性より少なく、若者もそう思っている人は多くないという結果も出ている。

若者や女性は、個人の生活を大切にしてさまざまな活動に取り組み、生活をエンジョイしているが、しかし仕事に生きがいも感じている。「仕事より遊び」ではなく、「仕事も遊びも大事」と考えているのがこの二つの層に共通した生活意識なのである。

しかし、それぞれがまちに求めるものや、地域への関心の度合いは、やはり大きく異なっているというべきだろう。

若者たちは、学校や職場周辺が日常的な活動の拠点となっており、住んでいる町での近所づきあいや地域活動への関心は薄い。そのため、まちに求めるものも、スポーツや文化鑑賞の施設やレジャー活動の機会の充実など、暮らしに密着したのではなく、文化的なものへの関心が高いようだ。

横浜も市外も同じように利用している、行動半径の広い十代、二十代の若者層に対し、それよりも少し上の三十代では、地域でさまざまな活動が展開できる施設の充

実を求めている。どちらにしろ、地域活動やボランティア活動にはまだそれほど熱心でないのがこれらの層である。

それに対し、横浜の女性たちは全体的に、趣味や文化活動への参加意欲が高く、また実際に熱心に取り組んでいる人が多い。また、ボランティア活動やリサイクル活動など、社会的な活動への関心が高いのもこの層で、今後の横浜には、こうした意欲を受け止めるための場づくりやシステムづくりが求められる。

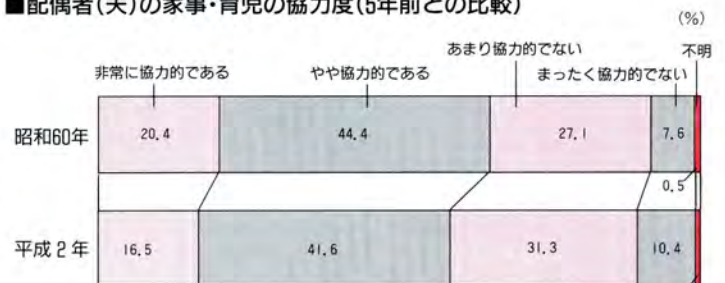
役割分担から相互扶助へ

現在は、仕事、趣味、ボランティアなど、あらゆる場面で元気な女性たちが目立つ時代となっている。働く女性も増え、育児や高齢者の介護な



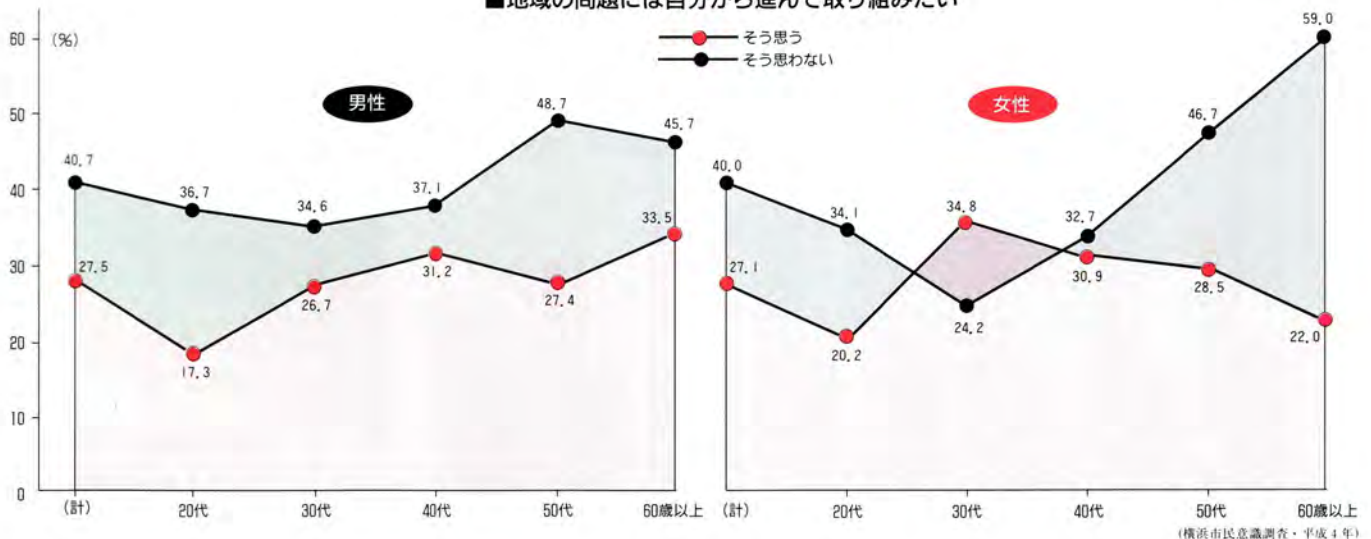
かつて女性が主役だった育児も、次第に「男性も協働で取り相むべき」という意識が高まりつつある

■配偶者(夫)の家事・育児の協力度(5年前との比較)



(女性の社会参加に関する調査・神奈川県) 0.3

■地域の問題には自分から進んで取り組みたい



(横浜市民意識調査・平成4年)

どを公的あるいは民間のサービスにたくす家事労働の外部化も進んできた。

しかし、日常的な家事労働となると、まだまだ女性がその多くを負わされているのが実状だ。「市民生活行動調査」での忙しい朝の過ごし方を見ても、テレビを見たり、新聞を読んだりしている男性の割合は高いが、朝食の準備や片付け、洗濯や掃除といった家事活動を行っている男性はごくわずかである。

平成二年に行なった、「夫の家事・育児の協力度調査」でも、その五年前の調査と比較して、「非常に協力的」が減り、「まったく協力的でない」が増えているという頼りない結果が出ている。

働く主婦は、専業主婦と比べてみると、睡眠時間が二五分も短く、夕食時間も三〇分遅いという差が出ている。毎日、あわただしく家族の世話に追われているようすが目に浮かぶ。それでいて、朝、新聞を読んでいる時間は専業主婦、サラリーマン・Oよりも長いというデータも見られ、睡眠時間を削っても、朝の情報収集だけは欠かすまいとする頑張り母さんの姿が浮かんでくる。

最近では、若い男性が違和感なく家事・育児を分担するケースが増えているが、まだ女性と完全に同じ立場とはいえない。

当然、家事などに無関心な男性にとつての地域への関心は、町内会、自治会活動など外向きのものとなり、女性の期待する地域の育児力や高齢者介護機能の充実とは異なったものになっている。

しかし、高齢化や少子化が進んでいる現在、地域における育児や介護機能はますます重要性を増している。家事労働を女性にまかせておけばすんだ時代は、もう過去のものになろうとしているのである。

最近では、町内会ぐるみ、自治会ぐるみでお年寄りを支えていこうとする動きも活発化しており、定年後の生きがいを地域活動に見出している男性たちも増えてきている。これからは、地域の支え合いの機能を高めていくことが、横浜市民すべてにとって重要となるのはいうまでもない。

どんな横浜が見えますか

それぞれの暮らし方によって、地域への関心は大きく異なり、横浜のまちの役割もそれぞれ違ったものになっている。

高齢者や主婦にとつての横浜はまさに生活の場であり、若者や女性にとつては活動の場となる。しかし、市内通勤者の男性にとつて横浜は、あまり生活感のない生活の場ということになろうか。市外通勤者にとつては、横浜はまさにベッドタウン。休日のおときだけ、市民の顔を取り戻すところだ。

外からの目、内からの目、お年寄りの目、若者の目、女の目、男の目と、さまざまな目が横浜を見ている。横浜の明日は、こうした目によってつくられていく。
あなたはいま、どんな横浜の姿を見ているのだろうか。

■今住んでいる街の感想 (複数回答)

(市民生活行動調査)

	1位	2位	3位
勤めを持つ高齢者	交通が便利 (76.2)	買い物が便利 (54.8)	道路・下水が整備されている (52.4)
家庭にいる高齢者	交通が便利 (73.1)	買い物が便利 (58.5)	緑が豊富である (45.4)
横浜で働く独身女性	交通が便利 (62.3)	買い物が便利 (62.3)	緑が豊富である (37.7)
市外で働く独身女性	交通が便利 (67.8)	買い物が便利 (52.5)	緑が豊富である (40.7)
住んでいる区外で働く既婚女性	交通が便利 (65.2)	買い物が便利 (54.5)	緑が豊富である (48.5)
住んでいる区内で働く既婚女性	買い物が便利 (78.3)	交通が便利 (73.9)	緑が豊富である (30.4)
住んでいる区内でほとんどの生活行動を行う主婦	買い物が便利 (68.9)	交通が便利 (67.6)	緑が豊富である (37.8)
住んでいる区外での行動が多い主婦	交通が便利 (60.2)	買い物が便利 (55.3)	緑が豊富である (48.5)
横浜で働く男性	交通が便利 (74.0)	買い物が便利 (56.5)	緑が豊富である (45.5)
市外で働く男性	交通が便利 (69.0)	買い物が便利 (49.2)	緑が豊富である (41.1)
横浜自営業	交通が便利 (64.8)	買い物が便利 (63.6)	道路・下水が整備されている (48.5)
横浜ヤング (大学生・専門学校生)	交通が便利 (65.3)	買い物が便利 (54.2)	緑が豊富である (37.5)
横浜ティーンズ (高校生)	交通が便利 (61.5)	買い物が便利 (46.2)	緑が豊富である (41.0)

()内は%

■今住んでいる街の今後のあり方 (複数回答)

(市民生活行動調査)

	1位	2位	3位
勤めを持つ高齢者	もっと文化施設が充実する (31.0)	もっと街なみが美しくなる (31.0)	もっと買い物が便利になる (28.6)
家庭にいる高齢者	交通事故等少なくとももっと安全になる (30.0)	もっと文化施設が充実する (29.2)	もっと街なみが美しくなる (26.9)
横浜で働く独身女性	もっとスポーツ施設が充実する (44.9)	もっと緑などが増える (31.9)	もっと街なみが美しくなる (31.9)
市外で働く独身女性	もっとスポーツ施設が充実する (50.8)	もっと街なみが美しくなる (35.6)	もっと文化施設が充実する (35.6)
住んでいる区外で働く既婚女性	もっと文化施設が充実する (39.4)	もっと街なみが美しくなる (28.8)	交通事故等少なくとももっと安全になる (27.3)
住んでいる区内で働く既婚女性	交通事故等少なくとももっと安全になる (37.0)	もっと文化施設が充実する (34.8)	もっと街なみが美しくなる (32.6)
住んでいる区内でほとんどの生活行動を行う主婦	交通事故等少なくとももっと安全になる (37.8)	もっと街なみが美しくなる (31.1)	もっと文化施設が充実する (29.7)
住んでいる区外での行動が多い主婦	もっと文化施設が充実する (41.7)	もっと買い物が便利になる (34.0)	もっと街なみが美しくなる (30.1)
横浜で働く男性	もっとスポーツ施設が充実する (38.3)	もっと緑などが増える (37.0)	もっと文化施設が充実する (33.1)
市外で働く男性	もっとスポーツ施設が充実する (42.6)	もっと街なみが美しくなる (38.1)	もっと文化施設が充実する (33.5)
横浜自営業	もっと緑などが増える (48.5)	交通事故等少なくとももっと安全になる (36.4)	もっと街なみが美しくなる (36.4)
横浜ヤング (大学生・専門学校生)	もっと緑などが増える (36.1)	もっと文化施設が充実する (34.7)	もっと街なみが美しくなる (33.3)
横浜ティーンズ (高校生)	もっと緑などが増える (41.0)	もっと街なみが美しくなる (34.6)	交通事故等少なくとももっと安全になる (28.2)

()内は%